

官民が連携した薬剤師向けゲートキーパー研修会

主催：埼玉県薬剤師会

協力：日本薬剤師会地域保健委員会

講師協力：埼玉県立精神保健福祉センター、埼玉ダルク

共同研究：国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部

研究事業：厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業）

ゲートキーパー研修会の次第（平成25年12月1日、明治薬科大学）

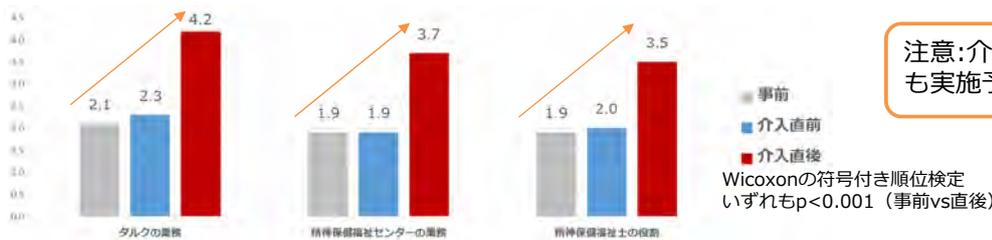
- (1) 10：05～ 説明及び直前アンケートへの回答
- (2) 10：20～ <講演> 処方薬が正しく使えない患者たち
(国立精神・神経医療研究センター 嶋根 卓也)
- (3) 10：55～ <講演> 精神保健福祉センターにおける自殺対策
(埼玉県立精神保健福祉センター 鴻巣 泰治)
- (4) 11：30～ <講演> 埼玉ダルクとは～地域の薬局との連携～
(埼玉ダルク 辻本 俊之)
- (5) 12：05～ ロールプレイ デモ（自殺リスクのある患者との服薬指導）
- (6) 13：30～ <グループワーク>（気づき、関わり、つなぎ）
- (7) 15：45～ 処方薬依存者が薬剤師に期待すること（埼玉ダルク 当事者）
- (8) 16：20～ まとめ、質疑応答及び直後アンケートへの回答、今後の流れ



ゲートキーパー研修会による薬剤師への介入効果

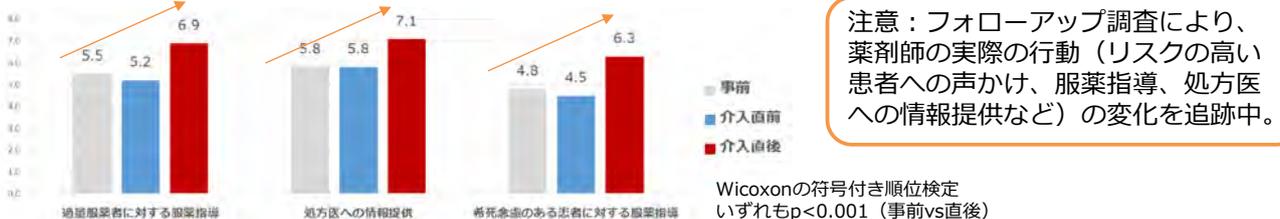
（対象：埼玉県薬剤師会の薬剤師105名）

1. 地域のメンタルヘルス支援資源の知識が高まる（知識スコア）



知識スコアは、事前～介入直前は変わらず、**介入直後に大幅に改善**
精神保健福祉センター職員、ダルク職員を講師として招聘したことが影響か？

2. 自殺リスクの高い患者との服薬指導、処方医へのつなぎに対する自信が高まる（自己効力感スコア）



自己効力感スコアは、事前～介入直前は若干低下するが、**介入直後に大幅に改善**
参加型グループワーク（自殺リスクの高い患者との服薬指導など）が自己効力感に影響か？